

主への賛美を希望の歌に!

小泉 基

わたしたちの前には、いつでもさまざまな課題があります。順調だったと見えるというのは振り返ったときに感じることであって、実際のところはどんなときでも目の前の課題に追われてあたふた走り続けている。それがわたしたちらしい歩みなのではないでしょうか。そういうわけで、今わたしたちが向きあわなければならないのは、このコロナ下という宣教の難しい状況の中で、どのように教会が力を失わずに宣教のためにあゆんでいけるのか。また、教区財政の逼迫がまったなしといわれる中で、教区の宣教体勢をどのように再構築していけるのかということ。いずれも簡単な処方箋があるわけではありませんから、出来ることをひとつずつ積み上げていくほかありません。

幸い、コロナ下にあってわたしたちは新しい道具を手に入れました。かつては教区の全体行事には多くの移動時間と交通費が必要でしたが、オンライン機器を用いることができるようになった今では、交通費なしに行事を企画することが出来ます。そこで、実験的な試行錯誤の段階ではありますが、昨年4月の「春の集い」の経験をもとに、今度は賛美をテーマにした「秋の集い」にチャレンジします。ポイントのひとつは、オンラインを通じての賛美のわかちあいには技術的なハードルがあるということ。オンラインの回線を通すとどうしても微妙なタイムラグが生じてしまい、声のタイミングを合わせることが難しいのです。これについては、それぞれの会場のマイクを切り、賛美の主導者のマイクだけをONにして対応する他なさそうです。もうひとつのポイントは、今回の集いではオンラインを通した教区の合同の礼拝にチャレンジするという点です。もちろん聖餐なしの、み言葉と賛美のわかちあいです。この間、礼拝の配信に取り組んできた教会は少なくありませんから、配信自体は難しくないと思いますが、司式者と奏楽者、説教者、会衆が、会堂にもオンライン上にもおられるという状況で、どれだけ礼拝としての一体感を感じられるのか。今の技術では一定の限界もあると思いますが、これもまたチャレンジです。今回のプログラムでは、礼拝の最中にグループごとのわかちあいの時間を入れるという意欲的な礼拝形式になっています。この点が上手くいくかどうかということと併せて、ぜひみなさんに新しいチャレンジを体感していただき、またいろいろな声を寄せていただければと思います。

各教会の近況報告

【函館教会】 小泉 基

今年の夏も、函館教会ではたくさんの遺愛生さんと一緒に礼拝を守りました。教会からもほど近い遺愛女子中高では、生徒さんたちに教会の礼拝に出席してレポートを提出する夏の課題を課しているのです。このご時世、オンラインでの試聴でも良いとされているのに、それでも多くの生徒さんたちが礼拝に出かけてきて下さいます。そこで、夏の5週間を遺愛生歓迎主日とし、生徒さんに理解しやすい旧約聖書からメッセージを語り、遺愛生さんに馴染みのある賛美歌を歌い、オリジナル聖句カードをお配りしました。カメラとディスプレイを使って第2礼拝会場を設置するなどの工夫も必要でしたが、この夏は162名の生徒さんたちとともに礼拝を守ることが出来、生徒さんたちから元気をいただくことが出来ました。

9月5日には熊本からおいで下さったトロンボーン奏者がミニコンサートをして下さり、教会外からもお客さんが来られて盛会でした。□秋は3週間にわたって週末のルーテル・スモール・マーケットを開店。小さな省エネバザーを楽しみます。



遺愛生を歓迎する夏の礼拝

【恵み野教会】 佐藤 光子

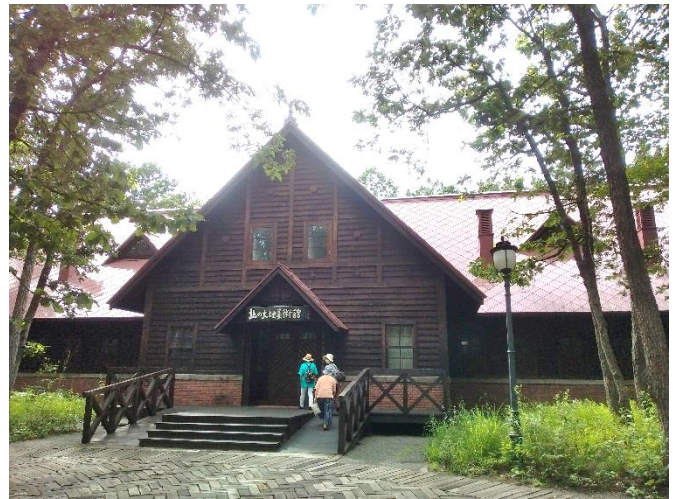
6月5日のペンテコステは花の日礼拝を行いました。礼拝堂をお花で一杯に埋め尽くしたいという中島牧師の気持ちにどれだけ応えられるか、何日も前から心配しました。各自の庭で当日どんなお花が咲くのか、予想がつくようで確信が持てない。一体当日どれ位お花が集まるのでしょうか。ペンテコステの朝、礼拝出席者が来るにつれ聖壇前に次々とお花が飾られていきました。牡丹、芍薬、シラー、メドウアネモネ、シラン、都忘れ、アルケミラモリス、キンポウゲ、クマガイソウ、萩、ユーホルビア、ゴールドコイン、カマシア、オダマキ、アイリス、クリスマスローズ、アスチルベ、バラ、ひまわり、ルピナス等々。各自が庭の花をありったけ持ち寄って聖壇前は色とりどりの鮮やかな花で埋められました。ホールも聖卓も壁の棚にも花・花・花。美しく飾られ芳しい香りのする礼拝堂、外では時折ウグイスの鳴き声が響き、聖霊の息吹きを全身に感じる中で、ペンテコステの礼拝を受けました。礼拝終了後に2年3ヵ月ぶりの茶話会をしました。久しぶりの語らいに喜びが爆発したかのように賑やかでした。自粛の言葉が脳裏をよぎりましたが至福のひとつときでした。



【帯広教会】 岡田 ひとみ

主の御名を賛美します。この夏も神様の恵みの中で教会活動を行うことが出来感謝です。7月3日(日)：牧師が休みを取られたので信徒礼拝を行いました。いつもと同じ位の列席者に対し役員が司式と説教代読を担当し御言葉の取次を行うことができました。13日(水)：私達の群れの大切な方が天国に召されました。とても残念です。これから始まる豆作業の時も寂しく思うでしょう。24日(日)：わかちあいプロジェクトの古着支援活動に衣類の寄付とカンパを捧げることが出来ました。31日(日)：礼拝後、久しぶりに教会員有志で中札内美術村に行くことが出来、楽しい親睦の時に恵まれました。8月24日(土)には、日笠山牧師を講師に迎え「新しい礼拝式文と教会賛美歌増補版」の学びの時を持ちました。

コロナ禍中でも色々な活動を持ってました(本当は早く教会の庭で皆と、ワイワイ騒ぎながらジンギスカンを楽しみたいものです)。密な距離はとれませんが親睦を深めたり、東京の「ちかちゆう給食活動」や世界情勢にも思いを広げることが出来、Zoom等の通信にも少しずつ慣れてきました。これからは新しい式文での礼拝を練習していきたいです。今年も豆作業が始まります。実りの秋を多くの方とわかちあいたいです。宜しくお願い致します。



【札幌礼拝堂】 山下 由美

イースターを迎え、主日礼拝が通常の礼拝になり、礼拝後の活動も徐々に元に戻りつつあります。8月からは宣教研修で札幌教会に派遣された三浦慎里子神学生も加わり、楽しく過ごしています。礼拝後のみんなでのお掃除も定着し、第一日曜は新式文の練習、婦人会、第二日曜はみんなの会、第三日曜は「キリスト者の自由」の学び、



第四日曜は讚美歌練習で翌月の増補版の讚美歌を練習します。どれもとても短い時間ですが、このように集えるようになったことは感謝です。また毎週木曜日の午前中の聖書の学びも、新しい方も加わり心を通わす場となっています。

めばえ幼稚園も、コロナ禍での感染対策を行いながら、子どもたちに経験させることを大切にして、活動・行事を取り入れています。3年ぶりのお泊り保育、小学校を借りての運動会は、子供にとっても大人にとっても思い出深いものとなっているに違いありません。保育に携わる教師・職員のためにもお祈りください。

一方高齢のために礼拝に通うのが難しくなった方、様々な事情で生活環境が変わった方、病氣加療中の方、召天された方もいらっしゃる。全ての教会員がどこにいても神様に守られて過ごせるよう祈ってやみません。

【札幌北礼拝堂】 井島 正明

北礼拝堂は開堂してから半世紀以上にわたり、地域の発展を見続け、歴代の牧師のご奉仕の支えがあって、教会員が集う心のオアシスとして現在に至っています。毎週、土曜日に主日礼拝が行われ、各週毎に学びの集会在守られています。『聖書の学び』『キリスト者の自由の学び』『聖書を読む会』『平和の学び』などの集いを通して信仰への力を強めています。また、地域の方々へ『ルーテルカフェ』も行われています。北礼拝堂は、常駐牧師が不在のため、信徒がそれぞれの立場で自発的に礼拝堂を維持する活動も活発に行われています。新型コロナ感染予防策で中止を余儀なくされていた集会も再開され、一同が参加することでより一層の結束が出来る場になっています。初夏から再開された聖書の学びについては教会員の希望もあって、数回かけてルーテル教会の歴史を学ぶことが出来ました。私達の教会は聖書を原点としていて、その意志を継ぐ教会であること。聖書のみ、信仰のみ、恵みのみが教会の信義であることを学ばせて貰いました。8月から約半年、三浦神学生が研修生として加わり、牧師への道を着実に歩まれていますので、信徒全員が支援しています。北礼拝堂が活気に溢れ、一人一人が、私と同じように心のふるさとが北礼拝堂であることを願って止みません。



【新札幌礼拝堂】 滝田 裕美

新札幌礼拝堂では、1週目に聖餐式があり、礼拝後の和喜牧師による聖書の学びを春に再開しました。2週目は信徒礼拝ですが、他の週と変わらぬ出席者数で、みんなが大きな声で讃美し、しっかり礼拝を支えてくださっています。3週目は礼拝後、みんなでお掃除の日。私は役員会のために移動しなければならないので、お手伝いしたことがないのですが、任せて安心！皆さん、いつもありがとうございます！4週目は礼拝後、新式文の練習、翌月の増補版の讃美歌練習、そして「みんなの会」。役員会議事録を見ながら新札幌関連の事を確認したり、困っていることを報告したり。でもここ数年、あまり大きな議題もなく、いつも5分くらいで終わります。毎週水曜日のオープンチャーチ（教区のオンライン聖研、和喜牧師の聖書研究もあり！）も再開しました。夏の間、礼拝堂の周りでネズミとハチが発生。それからオルガンが時々不調で異音が生じたりしなかったり…対処が必要なトラブルもいくつかありました。写真は久々の集合写真…と言っても、礼拝堂でそれぞれの席に座ったまま。元気なことをアピールするため、ガッツポーズをしてもらいました！私たちは、元気です。



「自己紹介と宣教研修に期待すること」

札幌教会宣教研修生 三浦慎里子（神学校3年）

北海道の皆様、はじめまして。8月から札幌教会で宣教研修をさせていただいている神学生の三浦慎里子です。札幌に来て、早くも1か月が過ぎました。皆さんに親切にさせていただいているおかげで、北海道での生活にも段々慣れてきました。生まれも育ちも九州・熊本ですが、不思議なことに、北海道の風土や人は自分に合うと感じています。神学校に入る前は、熊本の九州ルーテル学院大学で職員として働いていました。主に学生支援に携わり、学生さんの就職活動や海外留学のサポートをしていました。信仰においては、高校生の時に受洗して以来、長いこと教会から離れていましたが、母の死によって魂の渇きを経験したことがきっかけとなり、再び教会に戻りました。教会に戻り8年の月日が経った頃、絶えず自分に向けられていた神様の眼差しによりやく気付き、恵みを受け入れることができました。自分の中で起こった神様の素晴らしい業について人に伝えたくても、ふさわしい言葉を知らず、その言葉が欲しくて、神学校に入学しました。神様の導きとは、人間には思いもよらないものですね。



宣教研修に期待することの一つは、牧師として様々な場面で十分な働きをするために必要な力を養うことです。指導牧師の日笠山先生や信徒の皆さんから多くを学ばせていただきたいと思います。更に、教会の皆さんと「一緒に生きる」経験をするのが大きな目標です。これまでの主日のみの教会実習とは違い、宣教研修では毎日教会で過ごします。皆さんの信仰生活や大切な人生の節目、救いを求めて教会に尋ねて来られる方との出会いなど、今まで立ち会うことができなかつた場面に立ち会うことになるでしょう。短い研修期間ですが、神様の御守りの中で積極的に皆さんと関わり、一緒に笑ったり、泣いたり、祈り合ったりできる関係を築くことができたら幸いです。そして忘れてはいけないのが、北海道の美味しい物を食べ、美しい景色を見ること！とても楽しみにしています。どうぞよろしく願いいたします。

かつては私も神学生～宣教研修の思い出～

8月から三浦慎里子神学生が札幌教会に宣教研修生として派遣されました。そこで、せっかくですから普段はあまり聞くことのない牧師たちの宣教研修の思い出も聞いてみました！

大岡山教会での7ヶ月

小泉 基

教会の現場に出て行くまでに、どれだけ牧師としてたくさんの引き出しを準備できるかということが、経験の浅い新任牧師の教会形成にとって大きな意味を持ちます。その意味で、わたしが派遣していただいた大岡山教会での7ヶ月間の経験、また師と呼べる北尾一郎先生との出会いは、按手を受けて牧師として派遣されていくにあたっての最高の準備の時となりました。

神学校に入るまで、わたしの牧師と教会に対するイメージは、父親と父親の牧する教会でのそれが中心でした。ところが大岡山教会の北尾一郎牧師は、そういう意味では父親とはまったくタイプが異なっていました。自分が先頭で旗を振る「伝道一本槍」という印象の強い父親とは異なり、北尾牧師は長い時間をかけながら教会と教会員を育て、自分は後からついていく。ある種、教会教育に特化したような教会形成をなさっておられたのです。どちらかに優劣があるということではなく、教会形成には色々な方法や進め方があり、牧師自身と、その教会の持つ特性にあわせて取り組んでいくのが良い。そのことを肌で感じる事が出来た、幸いな7ヶ月間の宣教研修だったのでした。



宣教研修の思い出

岡田 薫

九州生まれの私にとって初めての北国生活。夏の日の出の早さからはじまり、同じ国なのに生活習慣や気質の違いに面食らうこともあれば、新しい出会いと別れを通して信仰生活の豊かさを学ぶ日々でした。というのも、私はずっとひとつの教会に属しており、宣教師の交代はあっても邦人牧師は同じ方でしたので、道内の個性豊かな先輩牧師たちの姿や礼拝堂の造りや所作に関しても、教会毎に小さなこだわりポイントがあること等、新鮮な驚きや発見がたくさんあったのでした。

ご指導くださった古財克成牧師はじめ指導員を引き受けてくださった皆さんにとっては、このじゃじゃ馬神学生がちゃんと牧師として巣立てるかどうかがハラハラされていたに違いありません。また、当時は信徒説教者として活動されていたソベリ先生からも厳しいご指摘も沢山頂きながら、それぞれの召命についての対話を深めてゆきました。神学校に戻る前に「先生も牧師の道に進まれたらいいのに」と思わず口にしたのですが、2002年には私の札幌転任とソベリ牧師誕生が重なり、共に北海道の宣教に携わることとなりました。神さまのご計画の深遠さ、恵み深さをしみじみ感じています。

宣教研修の思い出

日笠山 吉之

牧師となって四半世紀—今では宣教研修の指導牧師となって偉そうなことを言っている私ですが、神学生時代にはもちろん宣教研修を経験しました。私の研修先は名古屋教会。名古屋の夏の厳しさは先輩たちから聞いていましたが、いざ実際に行ってみると想像以上の暑さ！あまりの暑さで食事が喉を通らず、毎晩ビールで栄養を補っていました。夏が終わると食欲も回復。名古屋の赤味噌にすっかりはまって、味噌をたっぷり使った煮込みうどんやおでんを堪能しました。指導牧師は、泣く子も黙ると恐れられていたN先生。でも、私にはなぜか優しくかったです。出来の良い神学生だったからでしょうか？研修が終わって、そのことを先輩たちに伝えると、「今までN先生もさんざんいろんな神学生の面倒を見て来たからいい加減疲れてしまったのだよ」と言われました。おそらくそれが正しいのでしょう。札幌教会と同じように名古屋教会にも幼稚園が併設されていたので、毎朝園児を迎えることから1日が始まりました。いや、園児たちが登園する前に園庭の落ち葉の掃き掃除をしていたっけ？指導牧師よりも遅く掃除に現れると機嫌を損ねてしまったので、毎朝早起しなればならなかったのが少々辛かったです。



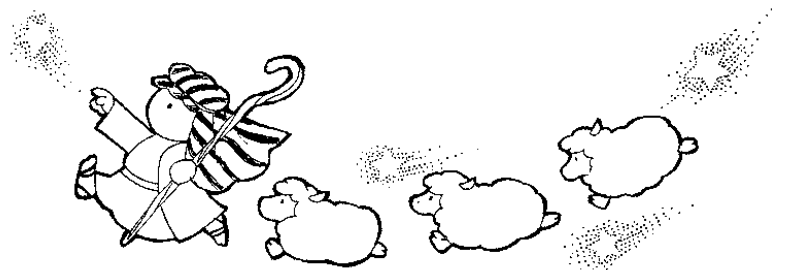
神に委ねる経験

中島 和喜

私は愛知県豊橋市にあるみのり教会に遣わされました。最も記憶に残っている出来事は、研修も慣れてきた10月のこと。教会を長く支えていたご夫妻の長女が若くしてガンを患い、いざ治療に専念するため仕事を辞めた直後に天に召されたのです。突然のことにショックも大きく、前夜式には200名以上の方が集まり教会に入りきれないほどでした。

けれど、記憶に強く残っているのは、葬儀の日というよりもその後のことでした。教会全体がどこか沈鬱な雰囲気の中、クリスマスの説教奉仕の役が与えられました。その時、私は悲しみが尾を引く状況の中でどうやってクリスマスの喜びを語れば良いのかわからなくなってしまったのです。その時の説教は作成に最も時間がかかりました。今作った説教の中で最もまとまりのない説教だったように思います。

けれど、件のご夫妻は礼拝が終わった後で涙ながらに癒されたことを語って下さったのです。その時に、礼拝は私が何をするかではなく、神が与えるものであることを実感したのです。その経験から私は今でも礼拝前、説教前には必ず「あなたに委ねます」と祈るようになりました。これが、今でも私にとって大きな経験として残っています。



日本福音ルーテル教会
北海道特別教区 秋の集い
オンライン合同礼拝

慈しみの主への賛美は
わたしたちの希望の歌



教区の友がそれぞれの会堂に集い、オンラインを通してつながりあいつつ新しい式文によるひとつの礼拝を守ります。ZOOMを通して自宅からも参加できる教区全体の合同礼拝です。あたらしい賛美歌を歌うとともに、それぞれが大切にしてきた賛美歌のわからあいまいたしますので、自分の好きな賛美歌を心に決めてご参加下さい。

と き：2022年11月3日(休・木) 10:30～12:00

と ころ：札幌教会(札幌北・札幌・新札幌) 恵み野教会 帯広教会 函館教会

司 式：日笠山吉之牧師 説教：小泉基牧師

ご自宅から参加なさる方は11/1までに jelchokkaidou@gmail.com 宛までメールでお申し込み下さい。
前日までにZOOMのIDをお送り致します。それ以外の方は各会堂にお集まり下さい。

教勢動向

札幌教会	受洗	原田金雄	(7月25日)
	召天	中野孝	(6月9日)
		原田金雄	(7月26日)
帯広教会	召天	石橋重信	(7月13日)